

生活支援コーディネーター(生支Co)の取り組み 全体像

当日資料4
第2回生活支援・介護予防サービス
提供主体等協議体

項目	目標	具体的な方法	期間	備考	一層	二層
コーディネーターの業務理解	役割の理解	研修や学習会に参加	適宜	生支Coの基礎研修や支え合いの担い手のコーディネートに関する研修など、様々な手法を学ぶことで、支え合いの仕組みづくりを進めるにあたっての引き出しを増やす。	○	○
		他自治体との情報交換	適宜	情報交換会や研修などを通じて、他自治体の生支Coと情報交換を行うことができるようになってきている。引き続き情報収集に努めていく。	○	○
市民との関係構築	関係構築(市民)	市内のサロン活動に参加	通年	すでに福祉活動などに関する取り組みをされている方との関わりを増やす。 →担い手とのつながりを増やす	○	○
		自治会との関係	通年	自治会で防災・防犯の取り組みを進めている自治会もある。連携の可能性を探る。	○	○
		市内の催しに参加	通年	地域の取り組みや市民の関わりを知り、交流を図る	○	○
		民生委員やふれあい協力員など、福祉に携わる市民との情報交換	通年		○	○
専門職との関係構築	関係構築(関係機関)	サービスの利用状況などを知る(市内)	年内	個別支援の実施状況から、質・量的なデータの両方を収集する。市の調査のデータを活用する。	○	○
		介護保険事業者との関係づくり	通年	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との情報交換(地域包括支援センターネットワーク会議)、総合事業通所Bとの連携	○	○
		医療関係者との関係づくり	通年	地域包括ケアシステムの実現を考えれば、ゆくゆくは医療との連携が必要か 市内における医療の実施状況の把握	○	○
		市民活動センター、ボランティアセンターと連携	年内重点	すでに福祉活動などに関する取り組みをされている方との関わりを増やす。 →担い手とのつながりを増やす	○	○
コーディネーターの業務	清瀬市の現状を把握する	人やモノなど情報を整理する	年内重点	要介護度別被保険者数(地区ごと) 社会資源の整理 見える化	○	○
	地域福祉活動	まちづくり懇談会、円卓会議に参加	通年	ニーズ把握につなげる 地域の方が知る情報を集める → 生支Coの役割の周知につなげていく	○	○
		地域での福祉関連活動に参加	通年	登下校の見守り活動や子どもの居場所づくりなどの活動に参加している、人と関係構築をする。	△	○
	ニーズ把握、社会資源の見える化	アンケート調査	年内重点	市内の小地域や団地など、支え合いに関する意識調査を行い、ニーズと人材の発掘につなげる。	○	○
		ヒヤリング	年内重点		○	○
		マッピングの実施	年内重点	人や物などの情報を地図に起こす。	○	○
	ネットワークの構築	サービス提供主体間の連携の体制づくりなど	通年		○	○
		関係者間の情報共有	通年	連絡会などの開催	○	○
	ニーズと取組のマッチング	地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動をマッチング	通年	市民や関係機関者からの相談に対する個別対応、コーディネート	△	○
	資源開発	地域に不足するサービスの創出	通年		○	○
		社会参加・活動の場の創出	適宜	市民フォーラムの終了後、4回の勉強会を開催	○	○
		サービスの担い手の養成	通年		○	○
	協議体の運営	市や委員と連携し、運営に努める	通年		○	○
	普及啓発	生支Coの役割、支え合いの推進について普及啓発	通年	市内介護予防事業や市民講座などに出向いて、支え合いの推進について説明をする。	○	○